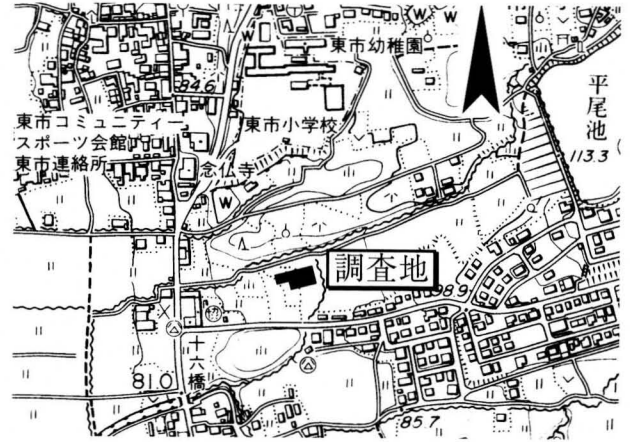


新たに発見された古墳時代の集落

(仮称) 古市桜谷遺跡 奈良市古市町

調査は、東市小学校の南、奈良市東市地域ふれあい会館の北側で行いました。東市小学校周辺は、室町時代の古市氏の居城跡、古市城跡として知られています。これまで、奈良市教育委員会では4回の調査を行っています。第1・2次調査では、16世紀の中世墓地と城の防御施設を、第3次調査では15～16世紀に埋まる谷を検出しています。ところが、今回の調査地と藤原川支流の東側で行った第4次調査では、予想に反して古市城跡に関連した遺構は無く、古墳時代後期の掘立柱建物、溝、土坑、柱穴を検出しました。この調査により、周辺にも古墳時代の集落遺跡が広がる可能性が高くなりました。今回の調査で、古墳時代の集落遺跡を確認しました。この集落遺跡を、土地の字名から仮に古市桜谷遺跡とよびます。

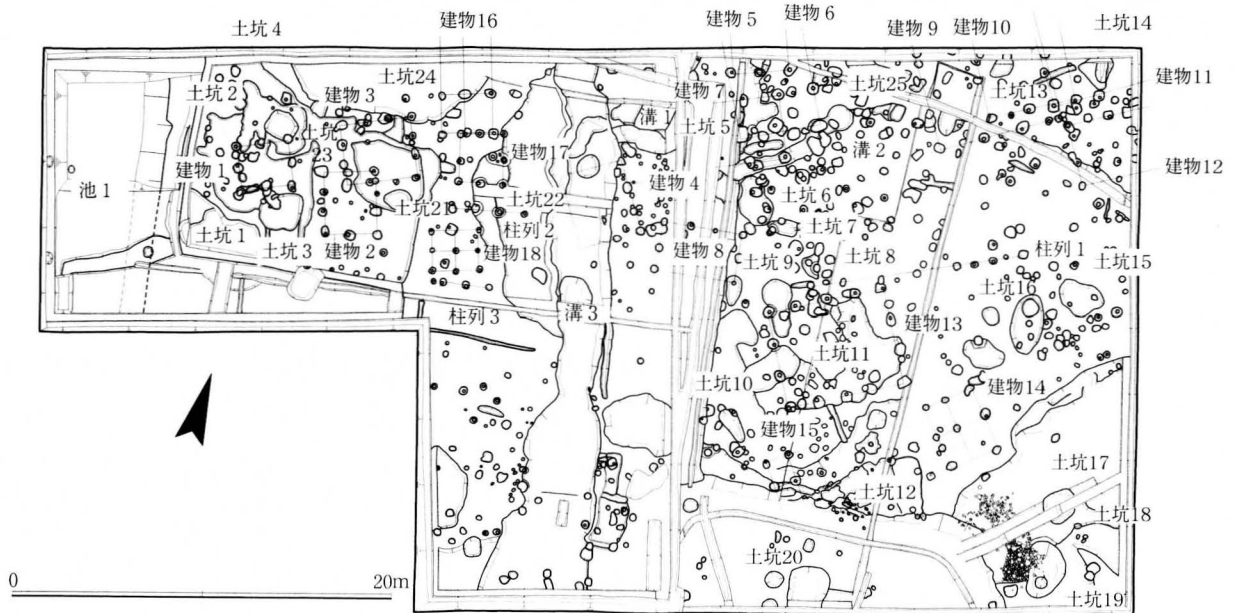
調査の概要 調査では、1,440 m²の範囲を発掘しました。現地表下約0.6mで遺構のある面に達します。発掘区の西側は、東側に比べて遺構の残りが悪く、削平されていることがわかりました。この面で掘立柱建物18棟、掘立柱列3条、溝3条、土坑25基、池1などを見つけました。出土した遺



調査位置図 1/10,000

物から見て溝1・2、土坑1～20は古墳時代、土坑21・22は室町時代、溝3、土坑23～25、池1は江戸時代の遺構であると思われます。

掘立柱建物・柱列の柱穴から古墳時代の土師器・須恵器が出土していますが、室町・江戸時代の遺物は出土していません。しかし、掘立柱建物16～18と掘立柱列2・3は室町時代の土坑との重複関係からそれより新しいものであると思われます。その他の掘立柱建物・柱列は古墳時代の遺構と考えられます。



発掘区平面図 1/400

紀寺・古市町一帯の古墳時代の集落遺跡

今回調査した古市桜谷遺跡と同じ古墳時代中期後半から後期の集落遺跡は、調査地北方の紀寺・古市町一帯に広く分布しています。

1. 東紀寺遺跡 現在奈良女子大附属中等学校や市立奈良病院がある付近に位置します。

遺跡の南東部で実施した発掘調査では、古墳時代前期末から中期に埋没した旧河道と後期の掘立柱建物・溝が確認されています。古墳時代中期後半に埋没した旧河道からは、土器や木器・木材が多数出土しました。

遺跡の北辺部や西辺部で実施した発掘調査では、削平された古墳時代中期後半の小型の方墳が確認されています。

2. 南紀寺遺跡 東紀寺遺跡のすぐ南で、今の能登川と岩井川にはさまれた地域に位置します。

遺跡の西半北寄りでは実施した発掘調査では、古墳時代中期後半の地域の首長が住んだ居館の一部とみられる濠と溝で区画された遺構を確認しました。濠の側面には石積みが施されています。一面には水の湧くところとそれにとりつく溝があり、水にまつわるおまつりを行っていたと考えられています。

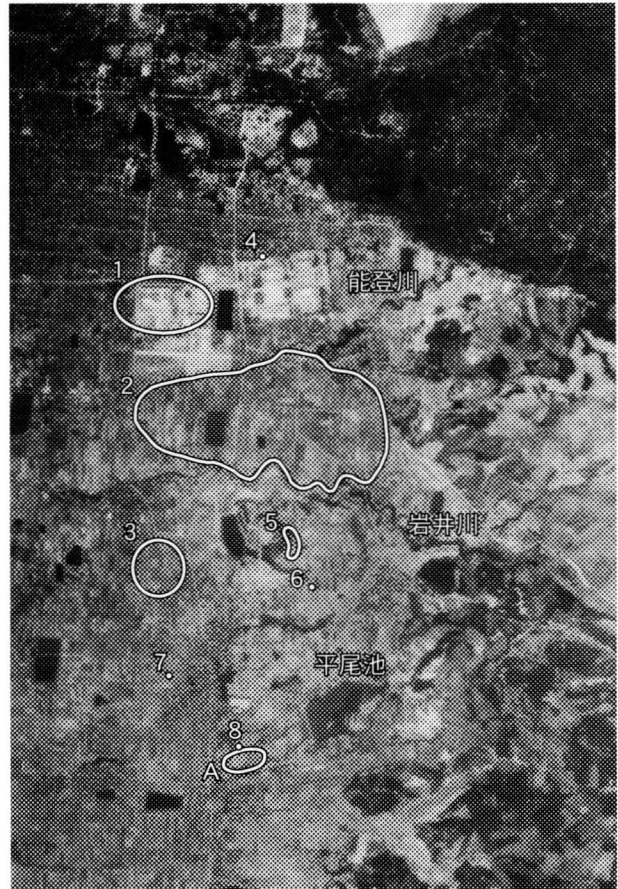
遺跡の西半南寄りでは実施した発掘調査では、古墳時代中期後半から後期の竪穴住居・掘立柱建物・溝・土坑が確認されています。出土した須恵器には焼けひずんだものがあり、近くに窯が存在したことがうかがえます。

3. 古市遺跡 南紀寺遺跡のすぐ南で、現在、護国神社のある台地の西側に位置します。

遺跡の北半で実施した発掘調査では、古墳時代中期後半から後期の竪穴住居・掘立柱建物・土坑が確認されています。

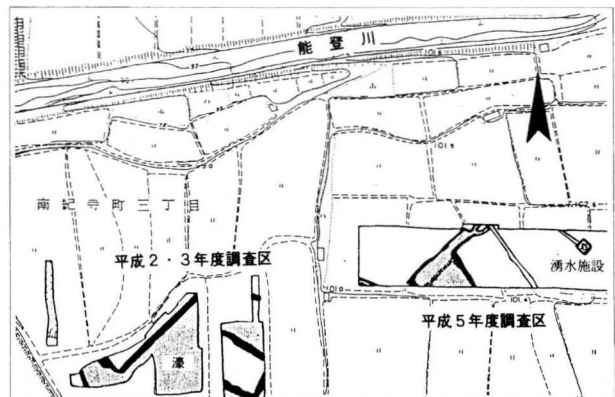
古市桜谷遺跡を含むこれらの集落遺跡は、互いに近接することや消長が同様であることから、同じ社会背景のもとで成立した共同体によって営まれたとみられます。特に中期後半の共同体は、濠で囲まれた居館に住む首長を頂点とし、木工や窯業等の工人集団を伴っていた可能性があります。これらの遺跡に隣接して吉備塚古墳・車塚古墳といった中期古墳や、護国神社境内古墳群・古市狐

塚古墳・馬垣内古墳といった後期古墳がありますが、これらの古墳の被葬者は集落を営んだ共同体の有力者と考えられます。



紀寺・古市町一帯の古墳時代の遺跡（写真は上が北）

- A：古市桜谷遺跡 1：東紀寺遺跡 2：南紀寺遺跡
 3：古市遺跡 4：吉備塚古墳 5：護国神社境内古墳群
 6：車塚古墳(消滅) 7：古市狐塚古墳 8：馬垣内古墳



南紀寺遺跡の濠で囲まれた区画遺構